

令和5年度 第1回JR小野田線活性化委員会 議事録

令和5年11月15日(水)

1 協議事項

発言者	発言要旨
◆JR小野田線活性化委員会規約の改正について	
桶谷委員長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
桶谷委員長	質問がないようであれば、承認とさせていただきます。
新役員の選出。新委員長として榊原委員を選任。以降の議事は、榊原委員長により進行。	
◆令和4年度事業報告、収支決算及び監査報告について	
榊原委員長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
木村委員	資料5ページの「3 利用者数の推移」にある数字の根拠は何か。
事務局	輸送密度ではなく、JR西日本から情報提供を受けた年間平均利用者数の速報値である。今後、数値の精査がなされ、県の統計年鑑にも記載されることになる。
木村委員	承知した。当社が発表している数値は速報ではなく確報になるが、概ねこの数値である認識でよい。数値の傾向を見ると、コロナ明けで更にインバウンドも含めご利用者数が以前のように戻ってきている機運もあるが、実際はそうでない現状がある。
榊原委員長	そのほか質問がないようであれば、承認とさせていただきます。
◆JR小野田線の利用状況について	
榊原委員長	JR西日本より説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
磯中委員	各駅の乗車人員や輸送密度の算出方法を教えていただきたい。
JR西日本 担当者	定期券に加え、通常のきっぷやワンマン運行において収受する運賃と整理券などの実績をもとに統計的に算出している。 また、輸送密度は、1日1キロあたり何名ご利用いただいたかという数値である。
磯中委員	資料に掲載されている輸送密度は、小野田線各駅の乗車人員を全て足したものを小野田線沿線キロ数で割ったものなのか。
JR西日本 担当者	輸送密度は小野田線内各駅以外から乗車した人数も含んで算出している。配布資料に記載されている利用者数の数値は、(輸送密度の算出には含めている)小野田線以外から乗車した人数は含まれていないので、実際の(列車にご乗車されている)ご利用者数となると配布資料で示している人数より多くなるのではないかと思います。
榊原委員長	輸送密度の数値よりも各駅の乗降人数を足した方が大きくなる。

J R 西日本 担当者	小野田線が13.9キロで、一人が全線乗車されると13.9キロで割り、1.0という輸送密度が算出される。例えば途中の雀田駅で降車すると全線の半分程度の距離となるので、この場合は0.5という数値になり、長い距離をご乗車いただいた方が輸送密度の数値に寄与することとなる。
榊原委員長	J R 西日本が輸送密度をよく用いるのは、乗車人員が平均的に算出されているため、経営的な指標となるからと推察される。 J R 西日本から見た小野田線と沿線の状況をまとめた当該資料が議論の出発点ではあるが、地元住民の意見等を踏まえながら、これからの小野田線をどうしていくかを考えていくべきだと思う。
◆ J R 小野田線の活性化に向けた今後の取組について	
榊原委員長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
榊原委員長	質問がないようであれば、この方向性についてはご了解いただいたということで、次の議案第3号に移る。
◆ 令和5年度活動方針、事業計画及び収支予算（案）について	
榊原委員長	事務局から説明いただいた。御質問や御意見をお願いしたい。
木村委員	SNSについて、フォロワーやスペシャルサポーターに対して、活性化活動に繋がるアンケートやモニターとなっていただけることは可能だろうか。この件については、引き続き市と一緒に研究してまいりたい。
事務局	利用者の生のご意見は非常に重要だと認識している。引き続きSNSの内容については検討を進めていく。
榊原委員長	そのほか質問がないようであれば、承認とさせていただきます。

2 その他

発言者	発言要旨
木村委員	昨年4月に弊社から記者発表を行い、小野田線を含めたローカル線の経営状況に関する情報開示のうえ、地域の皆様と課題を共有させていただき、地域旅客運送サービスの確保に関する議論や検討を幅広く行いたいと問題提起させていただいた。また、本年10月には改正地域公共交通活性化再生法が施行され、「地域の関係者の連携と協働」が新たに盛り込まれた。その結果、本日のこの会議において、関係者が連携して、持続可能な交通網の形成に取り組んでいくという目標を掲げられたことについて感謝申し上げる。 また、「J R 小野田線沿線地域公共交通持続化プラン」のような交通利用者を増やす取組について、最大限しっかりと協力し、関係者の皆様と引き続き議論させていただきたい。
榊原委員長	山陽小野田市に限らず鉄道という問題を議論することが難しい状況の

	<p>中、船木鉄道にも参加していただき、本日の会議を開催できたことは大変喜ばしいことだと考えている。まずは利用者増に向けて確実性の高い通学生から取り組んでいくということは重要である。</p> <p>電車、バス両方の底上げをするために何が必要か、この場で議論していければと思っている。引き続き関係者のご協力をお願いする。</p>
--	---

閉会